

30

20

JAPAN

10

8

6

4

2

0

禮術圖翼之卷

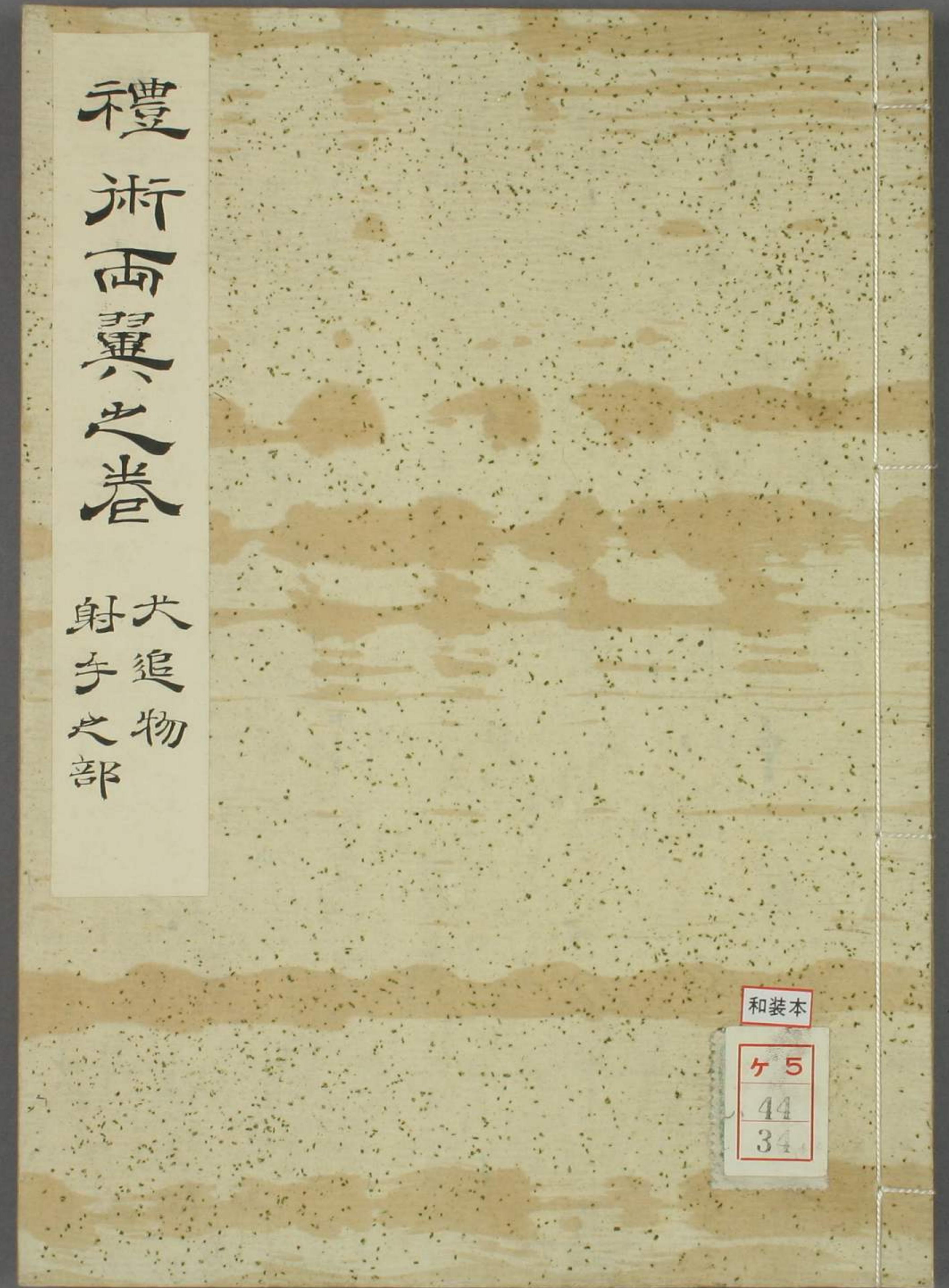
大追物  
射手之部

和装本

ケ5

44

34





大坪本流西翼之卷

犬追物 射手之部

春生軒齋藤定易撰

犬追物射手者故實シ知ルヘシ騎射八道之  
法術アリトヘニ近代ハ犬追物ヲ以テ  
武備ノ第一トス其射手ニ生得ノ射  
チアリ 話古ノ射チアリ 唯ユ夫シ  
シ廻レ 他人ヲ見テモ能死リ學ヒ恩  
死シ琢ヘシ 我意シ捨テ右射チノ

上手ニ交テ尋習へ、自然ト射手  
ニ成ヘシ。上手ノ射手トイヘニ其  
衛一日懈怠スレハ中シ失フハコ  
ノ道也。況ヤ初心ノ射手其心得ア  
ルヘシ。

射手ニ昔今トテ強チニ改事ナレトハイ  
凡人ノ心代ニ移リ時ニ依テ其品アリ。昔人  
射チハ如何ニモ中シ心懸矢數シ嗜故

内外吾一人ト馳迫<sup>マワ</sup>ル是必ス當世然ヘカラ  
ス喻矢數ナレトイヘニ一足モ矢<sup>ミ</sup>尋  
常ニ物深ク射タラシハ能カルヘシ。但シ  
是シ惡ク心得テ矢數ニ及ハス十足九  
足ニモ矢<sup>ミ</sup>放サス。唯繩ニ扣タルハカリ<sup>ヲ</sup>  
當世射手ノ風情ト心得タル射手アリ是  
亦大キニ然ヘカラス。矢數ナキシ宣レ  
キト云ニ非ス矢數シ第一スル時、

次第ニ射方崩テ惡キカ故ニ初心ノ射手  
ハ右ノ如ク心得ヘシ射様モ能矢數モア  
ラレハ流ノ船ノ棹ノ如レ初心ノ程餘リ  
ニ矢死シ執スルヲモ却テ惡カルヘシ  
矢ヲ放ニ付テ惡キ死モ見レ能モ出  
來ハ古射手ノ教モアリテ後々ハ射手  
ト成ヘシ更ニ矢シ放サレハ業募サル者  
也上手ノ射手タリトイヘニ毎度心ニ任

セストテ思フ矢死シヨリ射メトタコ  
ウ程ニ人ニ射取レテ無念ノ事也五十足  
百足十トニモ如此スルヲ有無ニ依ヘカ  
ラスト云ヘ凡餘リニ矢數ナキモ射  
手ノ物重ク成因縁也若キ人ナト如  
何ニモ内外ニテ馬ラモ乗キワクト射  
ナスヘシ但シ其節貴人高人亦ハ右射  
チナト連ナリタル節我一人ト馳迫ニ事

モ目サヘシカルヘシ 射手ノ心地能チ手  
シ射タルニ下チノニ騎三騎ヲ隔タ  
ル押カナトニテ内ニ射置<sup>モコ</sup>テ無念者  
也得タル射手ナトニ上チノ扣タル  
ミハ左右ナク打寄カタシ綻<sup>タト</sup>元來扣タル  
リ打退テ射手ニ左ヘ度者也必ス  
犬毎ニ如些タルヘシ 法ニハナケトモ右  
ノ分心得ヘキ事也ト佐々木定綱ノ

ミレケルト也

犬追物ニ射手ノ品々有ヘシ 射方ニカ  
サアリテ 馬達者ニ幹深カラニ射テ  
ハ宜レキ也 又尋常ノ射手品掛リ能  
矢咎シ馬ノロシリ或ハ鞭シ打テ生  
得ニ面白キ 射手モ宣レキ也此ニ<sup>ハ</sup>  
ナケレニ指テ見思キ灭ナクスルくト  
射ナレタルモ有ヘシ若シ右ノ射手ミ

アラ子ニ矢數アリテ達者ナルモ勝  
負ノ時又ハ後日ノ日記ノ爲ニハ宜レ  
キ也但レ能カラヌ射手 餘リニ矢數  
アルモ惡クテ古射手ノ甲斐ニナルコト  
アリ誓古アリテ射方能<sub>テメシ</sub>足テ矢  
數アランハ誠ニ上手也此内一ツモアラ  
ハ射手タルヘシ右ノ外ノ射手ハ批判  
ニ及ハスト知ヘシ

初心ノ射手厅入ノ馬シ好ムト有ヘカラ  
ス馬ノ強キニ取合テ馬ニ心シ懸ル程ニ  
矢取矢數シモ射矢ニ覺スシテ馬ニヒ  
キタテラレ腰高ニナルコトモアリ  
如何ニモ乗安ク鞍ノ内静ニ口趣和  
成馬シ好ムヘシ 初心ノ程ハ射ヤウノ  
ミ嗜カエヘニ善馬ニアラスシテ成ケ  
タレ上手ノ人テモ晴ノ犬又ハ勝負

犬ナトノ時、是モ善馬ニアラスレテ  
骨シ失ニ矢數モナキ者也。時々下地  
ノ馬シ乗替く射シ誓古ノ第、下スシ  
犬シニ色ニ射ト云事アリ。内々ノ誓古ノ  
時、如何ニモ内外ニ走廻リ色々ニ  
射ヤウシモ誓古スヘシ。亦晴ノ犬ナ  
トノ時、一足モ尋常ニ物深ク認テ仰  
テ上チシモツメ下リ能嗜テ射ヘシ勝負ノ

時、貴人ニテモアレ上チツメ馬シ乗懸ハ  
テハシソ置ス射ヘシ。公ナカラ勝負トテ  
主人又ハ至テノ貴人ナトヘ餘成馬ノ扱ハ  
其申ニテモ用捨モアルヘキヲカ勝負ト  
云、奥ニ記シ置ク品ノ事也。

主取  
上下ノ勝負ト云ハ日記ノ上ノ通ト下ノ  
通ト押分リテ勝負ニ射ト云也。

老若ノ勝負ト云ハ年寄ト若人ト分リテ  
勝負ニ射シ云也

追取勝負ト云ハ人ノ射ントスル大ト馬ト  
人間ヘ衆入テ阿ノ馬二人ノうちニテモアレ  
亦ハ歟ナトシ取テ引居ナトシテ射シ追取  
勝負ト云也

相手勝負ト云ハうちチカト馬チカト分  
リテ勝負スルヲ云也

射取勝負ト云ハ貴人ヨリ引手物シツミ  
重テ矢ニ依テ賜ルシ云也矢評儀言傳  
矢數ニ口傳アリ

増勝負ト云ハ射手ヨリ掛物シ出レテ  
矢數次第ニ分ル也日記付ノ人分榜ク  
ヘシ則闇犬死ニ其品記ス故ニ愛ニ略ス  
ト當勝負ト云ニキ犬ノ時上手ト下手  
ト矢數中ラ争フシ云也

貰勝負ト云ハ一人ノ追フ犬シ貰好ニテ射  
シ云也射外入時ハ掛物其人ニ遣スラ云也  
賄物ノ犬ト云ハ圍大追物ノ如レ射手十  
二騎也其射手掛物シ一人前ヨリ十種宛  
持テ出ル也然レ時ハ百二十種ノ掛物  
ナリ射手矢數ニ隨テ取也残ル二十  
種ノ内シ十種ハ撿見五種ハ呼次三  
色ハ日記付ニ種ハ再拜振取也

三足勝負ト云ハ三足續テ射タルラ云也則三  
足ト貰レ入レ也三足ノ間ニ餘人一足ニテ  
モ其内ニ射タス不矢ニハ成間敷也是シ三  
足勝負ト云也

セ次勝負ト云ハ圍日記付ニ致レ射レ也揚  
ラノ圍ノ如レ少シモ達ナク日記付咲キ  
付ル也。モ付勝負ト云ハ鎌倉代血騎大追  
物ノ如ク射ルシ云也何モノ犬ノ誰射ヨト

仰セアル如ク射シテ也人ニ射ラレテ餘ノ犬  
シ射タリトモ矢ニハナルマレキ也  
白磋ノ勝負ト云ハ射手シ 摺ニテ射サ  
スルヲ云ナリ一段矢アシモキラタメ矢  
束ヲモ引矢番シモ見馬ノ折ヤウ内馬外  
馬己下ベテモ撰ニテ射ルラ白磨ノ犬ト  
也射手ノ上チシ検見ノ功者勝負ヲ  
分ルハ此犬ノ事也

古右拾三色ノ勝負犬ト云也小笠原流ニテ  
八色勝負犬トテ此内毛付勝負相手勝  
負射取勝負守當勝負貰勝負シ除テ  
残ル八色ノ犬シ指テ八色勝負ノ  
大トハ云事也

射手十六騎十七騎有コトモアルヘン左様  
ノ時ヘ繩挾キ事モアルヘン犬ノ初ル  
時モ又タリロノ時モ其内貴人ナトノ馬

シ繩一寄ラル、ヤウニヒツカヒシモシテ射  
宇多キ時ハニ騎ニ騎ハ規<sup>ヤチ</sup>立テモ苦シカ  
ラス是ヲ一片ニ心得テ繩降ヘト斗心得  
テ人ノ馬ノ間へ馬シ寄ハ却テ見思  
アルヘシ懃テ十足ノ内ニモ巨繩ニナ  
キヤウニ心シ遣我射サル時モ馬シ繩  
一寄スヘシ貴人ノ上手ナトハ馬シモ  
ホ退テ斟酌有ヘントイヘ上手目カ旁ハ射思

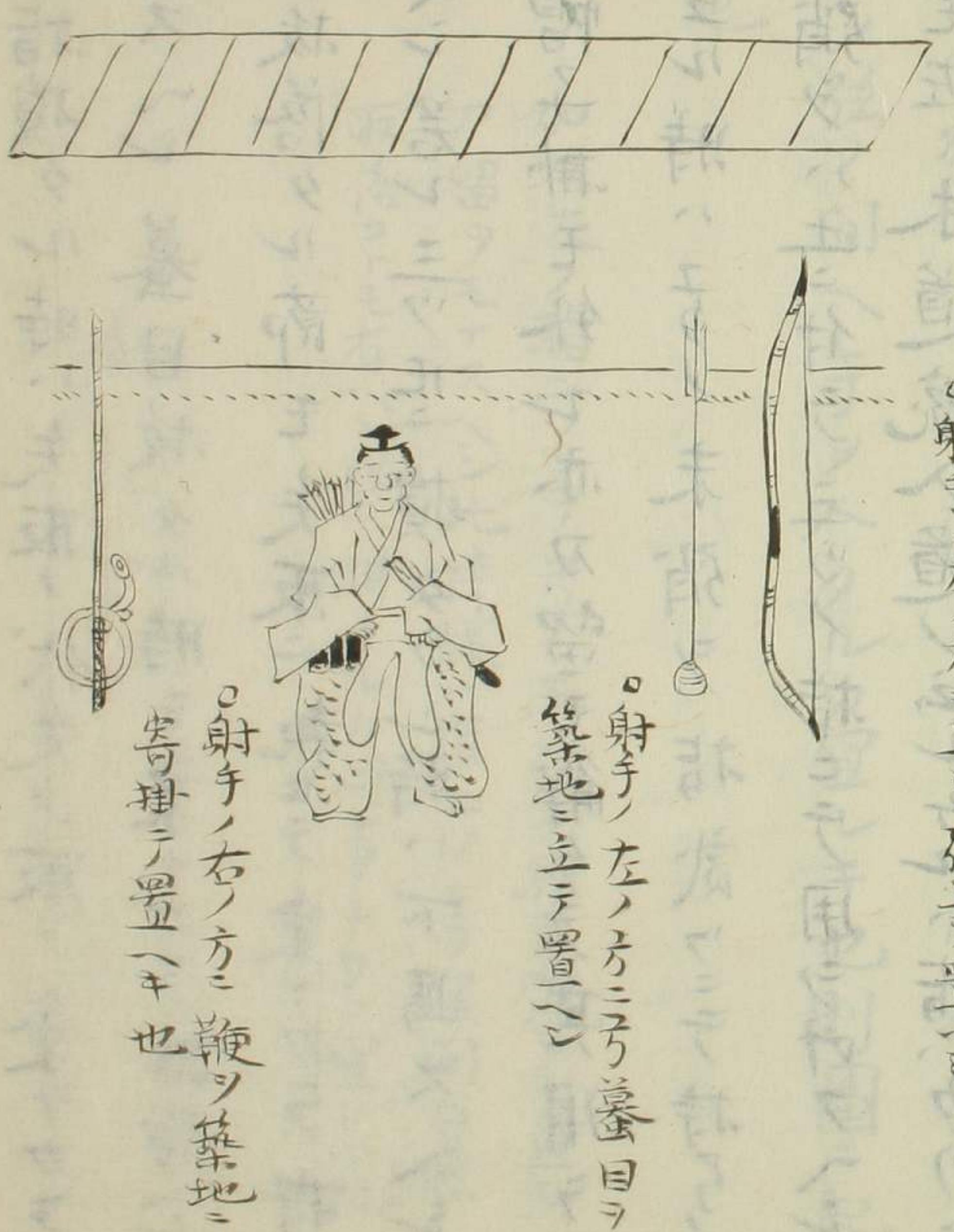
キ間馬扱ヒ心扱シシテ貴人ノ上手成共馬  
シ寄スヘシ一片ニ覺悟アルヘカラス  
古キ射手ノ教ニ矢シ射テモ猶ニ目ノ墓  
日ヲ取テ推掛<sup>フジ</sup>テ檢見ノ食ヲ見ヨホト云  
是モ餘クニ覺エ一騎合ノ物ヲ不審ナク心  
地能射タル時ハ馬ノロツモ引ヘキニ昔ヤ  
ウニ推掛けアラン<sup>ユウ</sup>モ更ニ射手ニ幽<sup>ユウ</sup>去  
有ヘカラス筈様ニ能射タラン時ハ矢咎

ヲモユツタリトシ馬シモ扣ヘシ赤馬坊ノ末  
モアリテ犬ニモ能寄合疏ニ逢付テ射中  
タルハ宜シキニ當世様ニ馬ノロシ引急  
ニ檢見ニ其事シ見ヨトニナルサエモ愚  
ニ見エル者也矢頃モ能カラス其品モ次ナ  
ラント思フ時ニ扣又射テ宜シキ死ニテハ  
推掛テモ射ヘキ者也但シ大名又至テ毎上  
ノ射手杯ハ追ヘキ死シ扣射ヘキ死シ射サル

モアリ是ハ制ノ儀ニハ叩ス初心人人ハ法  
シ守リ上手ノ筋ヲ學フ時ニ功名者也  
歩射更ニ叶サル人ノ犬シヤサシク射為タ  
ルモアリ筈様ノ人杯ハ外ノ物遠ク廻ソタル  
シ射時ニ其矢ヲモ見ユヘシ又生得ニ歩射モ  
能キ利タル人ノ遠廻リタル物ノ提携成  
ネ指渡シテ射タルハ一奐アリカラハセシ  
方レリイヘニ馬能乗時ニ必ス中ル者也

矢取遠キ 物シ嫌ヒ近キ物シ賞スル事モ一斤ニ覺悟スヘカラス人ニモヨリ突モ依事也

腰シ射拂タル時ハ便宜能死ニテ馬ヨリ下テ沓シ脱チシモ鞭シ築地ニ立テ置板左皮ノ緒ハカリ解テ 腰指ヲ 指スヘシ候リ召寄スヘシニシテ左ノ方ニ立テ 鞭シ右ノ方ニ立テ置ヘキ也 則圖ニ見ヘタリ

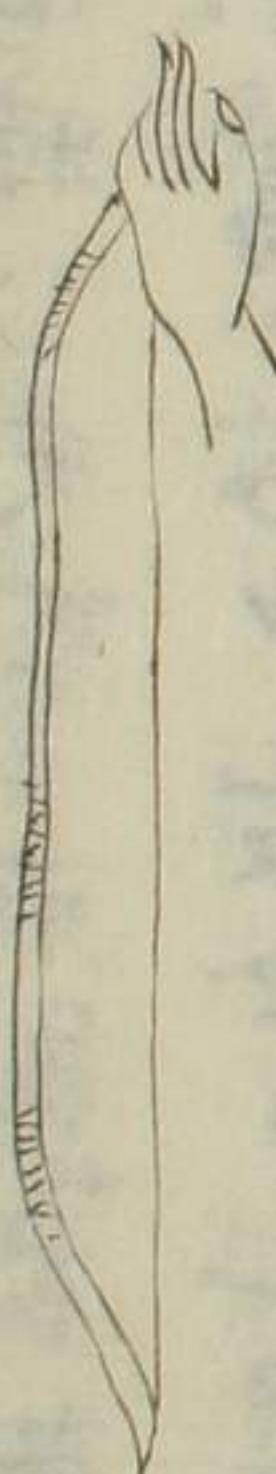


腰指損タル時ハ矢取ノ代矢シ取テ乗ナカニ  
指スヘシ蓋目拔タル時モ乗ナカラ詰指シ  
鞭拔落タル節モ矢取ニ執セテ乗ナカラ指  
スシ若レニツ庄ニ損タラン時ハ下馬スヘシ  
鳥帽子掛モ外レ亦刀留モ解ケテ其用ヲ  
叶ユル時ハ弓ノ末梢シ指貳ツミテ持リ  
卒消シハ土ニ付テニツノ指ニテ用シ叶フヘシ  
然ニ佐ニ木道統入道ノレケルハ指ハカリニ

テハ自然弓ヲ取落ス事有之間小笠原家  
ノ如ク弦ノ間ヘチシ入タルカ宜レキ也則圖ニ記

ス也

武大左ノ指ニツミテ弓ノ末梢シ持テ牒ヲモ直レ  
ア留ラモナスヘシ此持様ハ指ニツミテ候間自然  
取落コトモ有ヘシ腕ニ掛タルカ同事ナカラ宜レキ也



ヲ取落シタル時ハ矢取ニ取スヘシ矢取ヲ  
シ築地ニ立テ馬ノロシ取セタルカ吉松矢  
取ノ後ヘキ退ラ馬ヨリ下テ毎ノ如ク沓  
シ脱築地ニ立タルニシ我ト取ヘシ馬場  
ホナラハ便宜ニ依ヘシ攸副ニ執副モ早ク見付  
未リ候ハ、ニラニ攸副ニ執副モ早ク見付  
出スラ取テ以前ノ如クニ袂シ着テ乗  
ヘシ

落馬ノ事 射手モ檢見モ毎々有ヘシ兼テ  
覺悟スレニ時ニ望ニテ 動驚スル事アレハ  
禍モ多カルヘシ落馬アラハ先何方ニテモ  
早ノ沓ソ脱ヘシ若レ沓脱カ子ノ鞠シ蹴  
カサク心得テ足ソ蹴上レハ脱ル者也禍ナトモ  
ナクハ沓ソ右ニ持蓋目アラハ左ニ持シ  
蓋目ナクハナクハカリ持ヘシ何方ニテモ落  
馬仕タル所ヨリ近キ方ヘ過矢取ノ後ヘ

行テ得ト抜ヘテ馬ニ乗ヘシ馬場中程ヨリ  
塙末ナラハ傍尓ノ外ヘ出テ行騒ノ緒ヲ  
モメ直レ矢饗ナトソ、ケタラハ付直シ馬  
ノ鞬シモヌテ能抜ヘ直レテキ入ヘシ綬繩近  
ニ落馬仕タリ凡射手具足ヲモ損子亦用  
モアラハ静ニ傍尓ノ際ヲ歩テ傍尓ノ外  
ヘ出スヘシ棟敷ノ左ノ妻ニテモ右ノ妻ニテ  
モ便宜能方ヨリ出ヘント伊豆守モヨレ

シト武田ノ犬追物ノ記ニ見ヘタリ内馬場  
杯ノ犬ノ時、右ノ妻ハカリコリサ入宣レキ也落馬  
ノ歎ヨリハ繩ト棟敷ノ間ヲ、通サルヤタニ心遣  
有ヘシ下立タル時、其從子杖ソ着テモ早  
ク乗タルカ勧キアリテ冥レキユヘ沓シ脱  
子正不苦亦右カラモ左カラモ乗ヘシ苦レケ  
テス古實アルコトナリ懇別西ノ矢取ノ後  
外馬場ノ四角ミテハ馬ニ乗ヘカラス何方

ニテモ棟敷へ馬ノ後ヲ向テ乗ヘカラス  
外ニテモ繩ニテモ持タルヲ他人ノ射手具  
足ニ掛リタルコトアラハ頗テ此方ノ弓ヲ  
ハス、ヘレ運クスレハ他人シ落ス者也タト  
己ハカ及ハスシテ落馬スルトモ人シ落ス事  
ハ如何ニ候向ニシ放シタルカ一段ノ故實  
秘事ナリ矢サヘ能ハニシ取落レタリ  
凡廻見ノ傍アル事

馬坊ニテ自然馬ヲ棄倒シ人シモ落シタル  
時、相手乗向頓テ馬ヨリ下テ行騰  
ノ芝カラ取テニシ幕目ヲ左右ニ持畏也落  
タル人ノ騎ヲ見テ相手モ馬ニ乗ヘシロ舟  
ノ小者立ヨリ馬ヲ加ル者也  
射手具足ソ落シタル時、馬ヲ留メ矢  
取コレヲ取テ參スル也此時ノ相手ハ幕目  
ヲ射スレテ侍ヘレ尚余ニ口傳アリ

落馬ノ時、其主別儀ナク法ヲ如レ若シ禍  
モアリテ氣ヲ失フコトアラハ、役副ノ  
者來テ、从呆スヘレ、上目ハ残ル、役副  
ノ役人請取ヘシ、小笠原ノ犬ニモ出タリ  
、弓モ折弦モ切鞭モ折タル、矢取ニ取  
セタル力能也。从添運ノモ有亦ハ折シモ見  
付子ハ馬、中工出テ尋タルハ、一物ニ見  
候、筒矢取ニ取セテ、从副ニ度シタルカ宜也。

是ハ口傳アリ、射手ハ其向寄便宣ニヨリ  
テ馬ヨリ下テ代ノ道具ヲ取替ヘキ也。  
弦ノ切タル取バ、又シ下ヘ成張弓ノ如ク持ヘシ  
強持添ラル、程成ハ、うニ取添ヘシ左ナクハ  
其俗置ヘン是歩射ノ時ノ心得タルヘシ  
ノ折タルモ、同前此時、馬ヨリ下テ、弓取  
替引目ニ取副、弓杖ヲ突テ、兼ヘシ馬ヨリ下  
時モ、弦ノ切タルハ、弓杖シ突テ、下ヘキ也。

ノ折タルへう杖突カレ、程ナラハう杖シ  
突ヘシコう杖突ヌ程ナラハ、从副ミアモコノ折  
シ馬上ヨリ遣テ下ヘ

コう折タリニラ杖ニスカル程ナラハ、短レニ  
渥分ワキテ下候ヘシ

墓目ノコホレヲ能々矢取ニ取スヘシ檢見矢  
ヲ汝汰有時墓目ノコホレアレハ紛ル、夏  
候間イカニモ堅ク申付テ取スヘシ

墓目大小古今ノ品アリ昔様ノ墓目トテ  
四五寸ノ墓目アリ餘リニ見取ナレ又當  
世様トテ弱ニ左ノミノ大墓目モ見取リ  
覺ユル也犬ニ中リ矢落ニ能カラス少シ遠  
廻リタル時、カナキ風情モアリ古昔射  
チノ中ニ今テ少レ墓目大ナラハ見  
灭アリナント覺ユルモアリ今時ノ射  
チノ中ニ今テ少レ墓目小ナラハ猶能

ラント覺ユルモアリ 餘リ成大小ハ共  
ニ然ヘカラス 但シ人ニ依テニ依ヘキ  
事也 精兵ノ子足ナラハ墓目一尺二寸  
ニモ餘ルヘシ然凡大抵七寸ナト然ヘシ  
テニ餘リテ墓目ノ勝タルヲハ持サル  
モノト多賀豊後守高忠モ云レシナリ  
赤漆ノ墓目熊柳ノ鞭ノ事何レモ本式也  
然凡若輩亦ハ入ニ依テ用カラス墓目鞭

カリ本式ニテ其外畧儀ノ事ナレハ木  
竹ヲ継タルニ等シ三手ノ犬ノ時カ高名ノ人  
ハ本式然レヘシ常人ハ射手具足本式ニハ拗  
カタキユヘニ墓目黒ク鞭ハ根竹然レシ  
殊ニ射手ノ策ハ竹ヲ本トスル也  
墓目唐糸作樺作ハ樺作ヲ本タルシ其  
故ハ昔、笠懸墓目ニテ、犬シ射タル事也然モ  
矢餘リニ多ク損レ墓目モ損スル間今代ノ

墓目ニ成タル也然同笠懸墓目ハ赤漆樟  
作成同赤漆ノ墓目樟作シ本丸トス小笠  
原美濃入道宗信ハ系作シ本丸ト云ア其  
故ト神代ノ鎬矢シ根本トス鎬矢ハ系作  
然同墓目系作本丸ト申サレケル也然庄  
將軍家御吟味ノ上庭侯ハ鎬矢ヲ懸ニ表  
タリ大射柄ハ笠懸柄ノ懸成ニヨリ赤漆ノ  
墓目卒ト射手ノ殿原皆一同ニ申サレケ  
ル

レ也亦漆作ハ俄爾ノ時ナトニ用テ宜レキ也  
矢印ノ事羽中卒作ノ下墓目植降三  
所也是モ赤漆卒夫也亦羽中ニモ矢印ヲ  
スシシ本作ノ下植際ニモ仕間敷事ニハ  
ナケレトモ目立同上手ノ射手カ高名久久ハ  
格別ノ儀也亦檢見矢印ノ字ヲ向レ候事  
アルヘシ其時ハ矢ノ印ノ字ヲ何ト申字ニテ  
候ト答ヘシ檢見是ヨリホアレヨ庄申サレ候

ハ候ト各ヘ申ヘシ

繩際ヲ掃除スル節酒杯百足ニ百足ノ間ニ  
呑コトアルヘシ馬上ニテ呑程ノ人ナラバ其役  
馬シキ退テチウ蓋目ヲ人副ニ持セラ奉シ  
馬ヨリ下ル人ハ下乗レテチウ蓋目ヲ人ニ持  
セ杏ラ脱决拾ノ子覆シ又レテ立テ居  
シ馬シカ我左ノ方に加サスヘシ酒此方ノ前  
ニ来リテ呑時、膝シ突テ一禮シテ呑ヘシ

物シテ呑サル間ノ畏蹲セサル者也鞭シト  
其役置テモ苦カラスホウ蓋目ヲ築也  
ナトニ寄掛テ置ハ鞭シ其加クスヘシ馬上  
酒矣クスラル時、盃ハ右ヨリ提子モ馬手一  
寄ヘシ呑人、右ノチニテ盃ハ行チ取テ呑シ  
先年細川家ニテニ百足大ノ時馬上ヘ酒出サ  
レタルコトアリ其時ノ盃ハ馬上盡トテ殊外  
呑能益也其取坪深クレ酒ユレスユホレ

サル益ナリ

矢代ノ事ハ射手檢見ノ時限リタル事也  
射手ノ中ノ人振役也ト小笠原ノ大矢代ノ堅  
モ記セリ

矢代棟敷ノ前ニテ振時、烏帽子懸ラ仕  
袴ノ括ラ解キテ出ヘレ但レ代ニ持タル袴  
アラハ着シテモ吉茂敷ノ前削除ヨリ一間分  
リ陽ラ蹲テ左膝シ突同左ナシ卒度矣ラ矢代

持來ル矢シ侍ヘレ矢代振人貴人ナラ、  
出ス人自身持テ出スヘシ尊貴人ハ攸副  
ニ持セテモ出ス也出レ振ハ矢代振ル人ノ馬  
チノ方ヘヨリテ矢シ出スヘレ振人蹲テ矢リ  
一ワ免右ノ手ニテ請取テ左ノ手ニ渡レ矢並ニ  
槍廻矢ノ揃タル時立上西手ニ持テ二足ニ足程歩  
出テ棟敷ノ左ノ妻ヨリ振初テ一ワ免置シ振マウハ  
歩射ノ矢代ニ暨ヘカラス然ナカラ矢ヲ置時手

ヲ振返シチノ甲シ下へナシテ墓目ノ方ヲ  
縄ノ方へ成ヘシ振返ス時ハ掌上へ左す  
勿論後ニテ墓目馬手ノ方ニルヤウニ心得  
ヘシ

主人貴人ノ御矢代ハ一番ニ置ヤウニ心得ヘシ  
振果テハ少シ畏ルヤウミニテ矢代ヲ見渡シ奉ノ  
方一飯ヘレ若シ貴人棧敷ニ御座アラス左  
彼テ右ノ手ヲ卒度突テ席ヘレホ矢代振節

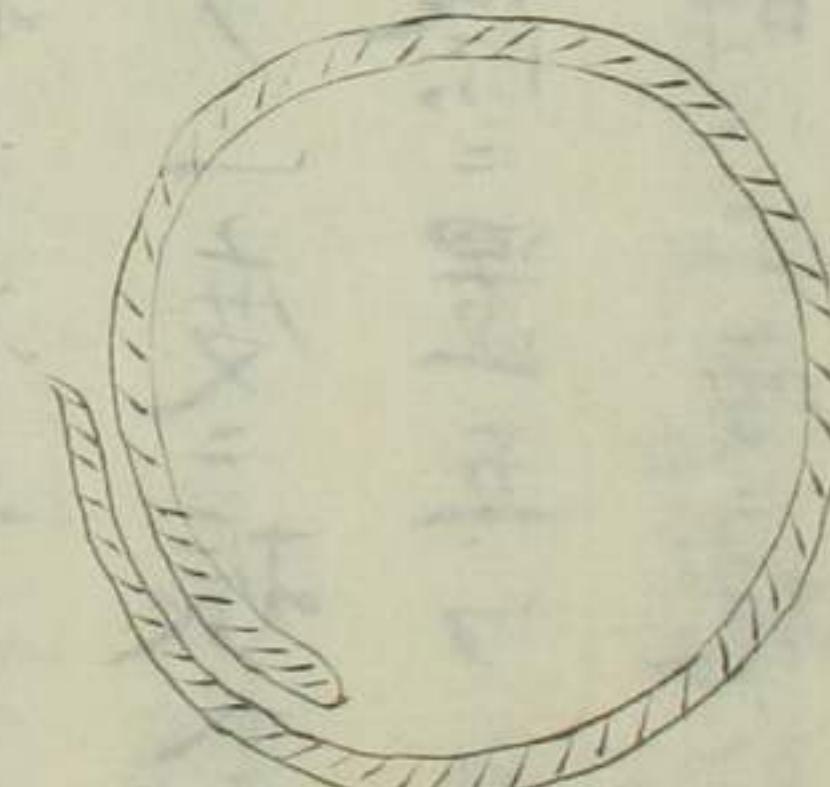
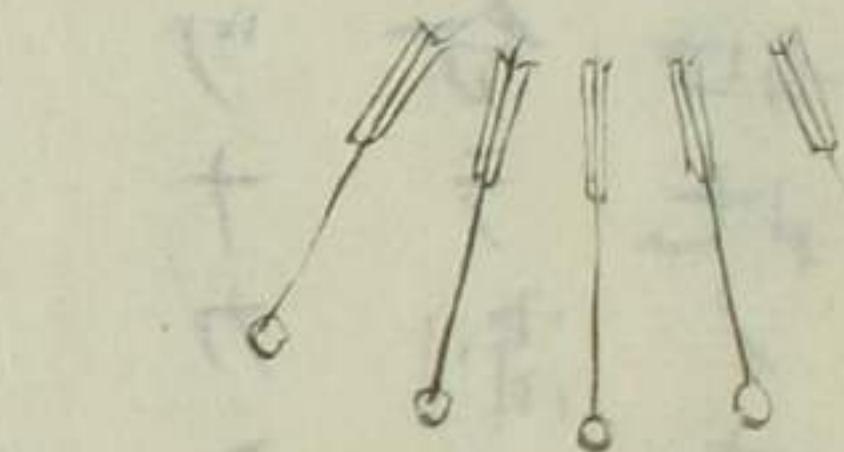
矢印シ申ス事モアリ口傳矢代仕舞時  
ハノ後ノ矢代ヨリ取テ帰ルヘシ右ノ手  
ミテ墓目ヲ下ヘナシテ提テ持也

矢代五ワノ時ハ五ワナカラ一度ニ振ヘシ  
矢代十ノ時ハ五ワ分テ削陰ニ置五ワヲ振  
納テ又五ワヲ振也如此ノ時ハ二度ニ振ヘシ

棧敷之前ニテ矢代振様  
繪圖記ス也

矢代我ト持テ畏出キ也

矢代五ツ加契合ニ置也



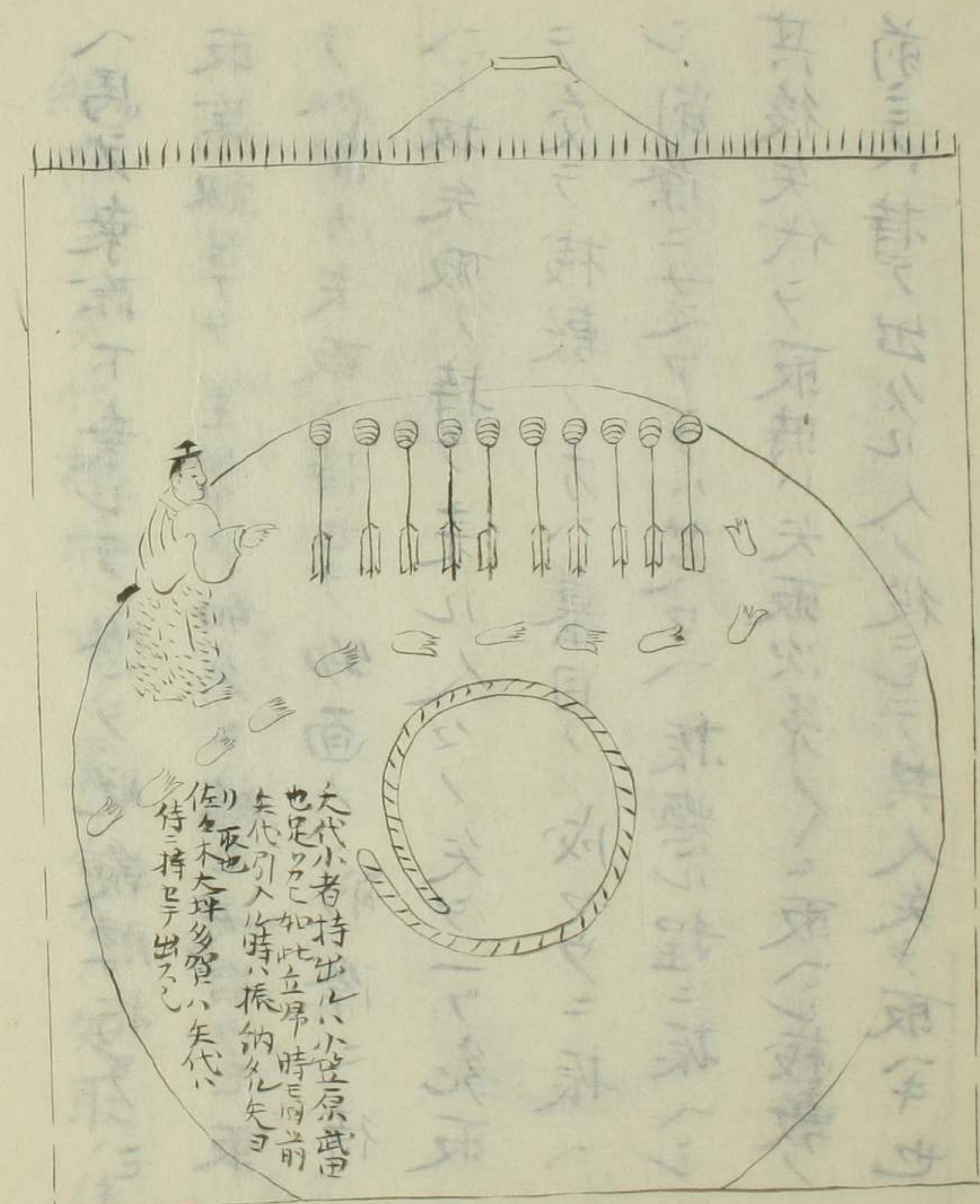
矢代我ト持テ右ノツヨリ出ルシ足<sup>足</sup>此矢代ヲ持  
時モ右ノツヨリ出振納タル矢ヨリ次第<sup>ノ</sup>ニアトヨリ先  
取ニ帰ル時元ノ方ヘ立帰ルヘキ也

繩際ニテ矢代振時に右ノ妻ノ方ノ矢取ノ後

ハ馬ヲ乗降下乗レテ沓シ脱鞭腰指<sup>タミ</sup>  
取除綴革ヲモ常ノ如クニ結ニ決拾フモ取  
テ<sup>ト</sup>ノ副カ矢取ニ持セテ物面ノ前際ニ待  
ヘシ<sup>シ</sup>矢取ノ持テ末ル人々ノ矢シ一ワ先取  
テ交テ棟敷ノ方ヘ<sup>ノ</sup>蓋目<sup>ノ</sup>成ヤウニ振ヘ  
シ前際ニ芝アラハ芝口ヘ振懸ル程ニ振ヘシ  
其後矢代ヲ取時<sup>ハ</sup>矢取次第<sup>ハ</sup>ノ<sup>ク</sup>取ヘシ棟敷  
前まへ持テ出久ル人ノ役ニシテ其人矢シ取<sup>キ</sup>也

主人貴人ノ御矢ナラハ少レ屈テ請取シ同輩  
ノ矢ハ其佟立ナカラ請取ヘソ振初ル矢ノ通  
桟敷ノ左ノ書ノ方ノ柱ノ順置ヘシ臺目ノカラ  
桟敷エナス也矢代三四芝ニ五六寸程掛ルヘソ振納矣  
モ同前也其子細、矢代直ニ置間跡先芝ニ掛  
ラテハ直ニナラヌ者也

繩ノ際ニテ矢代振間射于ハ馬ヲ乗降テ有ヘ  
シ下馬仕間敷ナリ



當流宗師

日牟武尊

迎末流

貞純親王

鹿鳴流

八幡太郎

義家

多回德也其子也

大條判官

義義

達道山入道中原

玄性

井樂ノ五ノ書ノ大

大坪式部太輔

廣秀

ノ氏ノ其子立七ノ村上加賀牛

永幸

主人貴人ノ

國忠

齋藤安藝守

好玄

齋藤備後守

忠玄

齋藤齋宮頭

辰遠

丹羽住僧了慶坊

齋藤末馬

辰光

齋藤主税

定易

大坪本流

大清文書

卷之三

三

卷之三

三

卷之三

三

